

議 事 録

件 名	第30回児童虐待防止対策委員会（現地審査）	
日 時	令和5年7月31日（月）11：30～12：30	
場 所	久留米シティプラザ 5階 大会議室	
出席者	委 員	吉岡委員長、佐田副委員長、古賀委員、麻生委員、田中幹雄委員、服部委員、西川委員、清水委員、枕島委員、田中浩之委員、野口委員
	事務局	緒方補佐、佐藤補佐、佐藤(沙)
欠 席 者	早川委員、重松委員、御厨委員	
傍 聴 者	なし	
次 第	1. 開会 2. プレゼンテーション 3. 質疑応答 4. 閉会	
審 査 員 【ペ先生】	【開会】 【プレゼンテーション】 【質疑・意見交換】 今回ご報告いただきました児童虐待については、とても深刻な問題です。特に子どもというのは非常に弱い立場にいますので、そこでなかなか私たちも表に出てくる数というものを把握しにくいですし、だからこそ大切だけれど大変というような状況にあるというのは、たぶん久留米市さんも他の国も同じだと思います。それで特に子どもの虐待は、その子どもたちの将来、そして次の世代に大きな影響を与え続けるという意味でも、できるだけ早いステージで防いでいかなければいけないと思っています。特にご報告の中にもありましたが、若い世代が子どもに接する機会が減っているというところで、子どもってどういうものなんだろうとか、忍耐の忍の一字で過ごさないといけないことがあるということなど、自分が親にならないとわからないこともあります。私たちが現役の時、少しはそういう経験もあったのですが、そのような社会環境に変化があると思いました。 実際、どのような取り組みをされたかを今回伺いして、本当に素晴らしい取り組みだと思いましたし、実際やるだけではなく、それによってどのように変わってきたかというところも具体的に示していただいたのは素晴らしいと思いました。特にこの5年、コロナでかなり私たちの住む環境というのはその前の5年と違う部分もありました。その中にも関わらず大きな変化を得たというのは、非常に素晴らしいと思います。その中で、より皆様方の素晴らしい取り組みがあるからこそ、次のステップに少しでも役に立てば、参考になればと思い、いくつかアドバイスというか、情報提供です。 まず一つ。久留米市さんは本人にもアプローチされているので常にされているかなと思うのですが、どれだけどういう形でゲートキーパーになれるのかなという視点で、いろんな方たちが関わっておられるのでその方たちがどういうゲートキーパーになるのかなというのを考えていくというのは一つの方法かなと。ゲートキーパーは自殺対策みたいに思われがちですが、窓口につないでいただく大切な役割を担いますので、そういう児童虐待予防のゲートキーパーみたいな感じで、	

議 事 録

オブザーバー 【ウィルソン先生】	教育というか情報提供できると、例えば幼稚園の先生もこれは虐待かなと思った時に何を基準にしたらいいとか、あるいは小学校とかでも、事例を踏まえてやってみることでより自信を持って報告できるようになるのかなと、そのやり方の裾野を広げるみたいなことも一つの方法かなと思いました。 それともう一つ、健康診断の時に、子どもが虐待されていないかっていうところを見つけないかということで、色々取り組みされていたので、こういう医療機関というのは一つの久留米市はキーワードになるのかなと思いました。是非新しい形でのゲートキーパーになっていただけるといいなと思いました。 そしてもう一つ。エビデンスに基づいた取り組みというところで、なかなか難しいところではあるのですが、実父の虐待が増えてきているというご報告をいただきました。このお父さんたちの置かれている状況とはどういうものだろうという視点で情報を集めるというのも一つの方法かなと思います。もしかしたら子どもに被害を与えている時に酔っぱらっていたとか、あるいはストレスですごくヤケになってアルコールを飲んでいたりとか、その結果判断がちゃんと出来ない状態になっているとか、おそらくメンタルヘルスのところとすごく関係するような気がします。今回のご報告の中ではそこまで言及されていなかったのですが、おそらくこれはもう既に気づいていると思われますので、やはりおっしゃったように加害者と被害者両方アプローチすることが大切だと思いましたので、少しでも新しい気付きにつながればいいと思いコメントさせていただきました。 非常に感心深く、ご報告を聞かせていただきました。おっしゃったように、このコロナの影響というのは、ある意味コロナによって一番その社会で弱いところに影響というか、問題が顕在化してきたのかなと思います。そこにはやはりその社会の分断というものは大きく影響していて、その結果、一番弱い子どもたちに被害が集まるというような状況になったと思います。 皆さんのそのようなこのコロナによって分断されたつながりが、いろんな面で社会のつながりが、それは家族だったり、地域であったり、高齢者だったり若い方だったり、生徒と先生だったり、そういうようなもののつながりが切れてしまったところを、この報告から見ると、それをもう一度つなげていこう、そしてそのつながりを増やしていこうというのが大きな根底に流れていて、大きな努力をされているのではないかな、これはもうこれしか方法はないのではないかなと思います。そういう意味では、皆さん何をすればいいかというのはもう充分、もうすでに理解されていて、正しい方向に向かっているのだなということを改めて確認させていただいたなと思いました。この正しい方向に向けて、次何ができるか、今やっていることに加えて何ができるかという形で、今皆さんがされている事は、決して間違っている方向に行ったり横道にそれたりしているわけではないと、改めて言わせていただきます。是非、このまま引き続き正しい方向に向かって邁進していただきたいと思います。 【閉会】
-----------------------------	--

指摘事項等	No	助言・指摘事項・課題
	1	【意見】次のステップに向けて 既に活動に関わっている方達に対する支援の一つとして、児童虐待が疑われるときに判断する基準や、過去の事例などを情報提供してみてはどうか。
	2	【意見】次のステップに向けて 健康診断の時に虐待されていないか確認するといったように、医療機関との連携を考えてみてはどうか。
		【意見】次のステップに向けて 加害者と被害者両方へのアプローチの一つとして、実父からの虐待が増えているとのことだったので父親の置かれている状況について情報を集め分析してみてはどうか。
		【意見】取り組みの方向性 コロナ禍によってより顕在化された社会全体の課題である、分断された社会や地域、家族、世代間などの繋がりを、もう一度繋げよう、繋がりを増やしていこうとする考え取り組みの根底にある。皆さんの取り組みの方向性は正しいと思うので、是非継続して欲しい。